資　料　１

推進会議の位置づけと設置目的

背景：交通政策に関する考え方の転換

＜これまで＞
- ➢ 1964年大会を契機に東京の都市の成長を支える交通インフラの整備を推進
- ➢ 交通手段別に増加する需要への対応

＜2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催の決定＞

＜交通を取り巻く社会経済情勢の変化＞
- ・ 国際的な都市間競争の激化
- ・ 急激な少子高齢化
- ・ 環境への意識の高まり

＜成熟社会にふさわしい交通政策の必要性＞

- ➢ ***交通手段別から利用者視点への転換***
- ➢ ***量の充足に加えて質の充実へ***

交通戦略の視点

■ ***交通手段別から利用者視点への転換***

～　利用者の視点に立った便利で快適な交通体系

・様々な利用者の視点（高齢者、外国人など）
・連続した一連の移動に着目（乗継、経路選択など）
・交通機関の能力を十分に活用（ネットワークの有効活用など）

■ ***量の充足に加えて質の充実へ***

・世界レベルの豊かさを実感できる取組（健康、環境など多様な効果）
・自動車に加えて身近な歩行、自転車などを重視（ディモータリゼーション）
・安全安心の確保

交通戦略の位置づけ

長期ビジョン
目標年次
2020年・2024年

実行

利用者視点に立った交通戦略

反映

「あり方検討会」とりまとめ

－利用者本位の交通体系－

交通インフラの更なる充実

交通結節機能の充実

道路空間・水辺空間
の利活用

連携

＜鉄道ネットワーク計画＞
目標年次：2030年頃
＜都市計画道路の事業化計画＞
目標年次：2025年頃
＜首都圏空港の機能強化＞
2020年目途

<u>交通政策基本法（9、32条）</u>
交通に関し施策を策定し、実施する責務

推進会議設置の目的

■　背景・設置目的（趣旨）

「あり方検討会」のとりまとめを受け、2020年のオリンピック・パラリンピックや外国人来訪者の増加、高齢者人口の増加、人口減少を見据えて、利用者の視点に立った便利で快適に使える、戦術（具体的施策）からなる交通戦略の作成する。

（目標年次2020年）

推進会議での検討内容

Ⅰ　具体的な取組の策定 （ワーキンググループ （WG）の設置）

Ⅱ　利用者視点によるわかりやすい目標・指標設定

Ⅲ　地域別戦略や各主体の役割分担の提示

推進会議　会議スケジュール

	推進会議
平成27年 7月31日(金)	第1回 交通戦略の位置づけ 交通戦略スキームおよびアウトカム指標の検討 WGの設置
平成28年 1月～3月	第2回 交通戦略のアウトカム指標の設定 WGの検討成果の確認 次年度以降の戦術の検討
平成28年	・ 戦術の確定 ・ 地域別戦略、各主体の役割分担の提示 ・ 交通戦略の今後の展開 ・ とりまとめ